

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。

1. 学習指導・進路保障体制の一層の充実により、「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」をめざす
2. 主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」をめざす
3. 自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、「グローバルに考え、行動する学校」をめざす

2 中期的目標

【未来をひらこう颯爽と】 → 60年の歴史を刻む本校は、これまでのよき伝統を継承して、さらなる発展をめざし、生徒が未来に向けて「颯爽」と（校歌の一節「颯爽たり枚方」に因む）飛躍、世界規模で活躍していくことを願って、中期的目標の冒頭にこの言葉を掲げる。

1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現に向けて

(1) 生徒一人ひとりが自己実現を果たすための「確かな学力」を身に付けるよう、全教員が「授業改善」に取り組む。

- ・新学習指導要領における各教科の「新教科スタンダード」を作成するとともに「新枚高マップ」の令和6年度の完成、7年度以降の充実をめざす。
- ・各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし「観点別学習状況の評価」を進めるとともに、これまでの教育実践にICTを効果的に取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせること等により、学びの深化を図る。
- ・国際文化科を設置する学校として全校的に「総合的な探究の時間」の充実を図り、課題発見・解決する資質・能力を育むための学びを構築していく。
- ・リーディングGIGAハイスクール指定校として、校内体制の整備を一層進め、1人1台端末を積極的に活用した授業実践のための教員研修や公開授業を実施する。これらの取組み等により、令和8年度以降、学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率85%（R3 85.1% R4 85% R5 89%）とともに、授業アンケートにおける満足度3.4以上をめざす。（R3 3.37 R4 3.36 R5 3.34）

（※「満足度」：授業アンケート「問8 授業内容に興味・関心を持つことができた」「問9 知識・技能が身に付いた」の全教員の評価平均（4点満点））

(2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。

- ・最後まで目標に向けてチャレンジする生徒を育てることにより、令和8年度には現役生の国公立大学合格者10人以上をめざす。（R3 4人 R4 4人 R5 5人）
- ・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率を令和8年度85%以上に。（R3 82% R4 82.3% R5 83.3%）
- ・「総合的な探究の時間」においてSDGs課題研究・キャリア教育・人権教育・国際理解教育等を体系的に実施し、課題を発見し解決する力を育成するとともに、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成に努める。自己診断における「総合的な探究の時間（枚方未来学）は自分の成長に役立っている」（R3 83% R4 80.1% R5 81.2%）の肯定率を令和8年度に85%以上とする。

2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて

(1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。

- ・学校行事での主体的な取組みを支援し、自己診断における「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率、令和8年度90%以上を維持する。（R3 94.4% R4 88.0% R5 92.0%）
- ・部活動加入率について、令和8年度に80%を達成するとともに、一層の増加をめざす（R3 71.9% R4 76.1% R5 75.1%）

(2) 生活規律を確立させる取組みを充実させる。

- ・遅刻者数の年間1,000未満を維持し、さらなる減少に向けて、令和8年度に向けて指導を継続していく。（R3 861人 R4 594人 R5 435人）
- ・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導、携帯電話やICT機器の使用に係る指導、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。

3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて

令和4年度「学校経営推進費」事業による「枚高で未来をひらこう ～Global Learning Hall から世界に羽ばたけ枚高生～」の計画（視聴覚教室のリノベーションによるグローバル人材の育成の推進）を引き続き実施する。

(1) 将来グローバル社会で活躍できるよう英語の4技能（「聞く・話す・読む・書く」）を総合的に育成する授業づくりを推進し、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。

- ・大学等の協力を得ながら、英語暗唱弁論大会を充実し、「外国語キャンプ」、「インターナショナルフェスティバル」「LETS 合同発表会」等に積極的に参加し、令和8年度には自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率95%以上（R3 91.2% R4 89.3% R5 92.8%）とする。
- ・英語検定、英語学力調査等の受検を推奨するとともに、準備講習等を計画的に実施し、令和8年度の国際文化科卒業時には英検2級合格80%以上、準2級合格100%とする。

(2) 国際文化科を設置する学校として、全校的に国際交流・異文化理解教育のさらなる活性化、SDGsに関する課題研究等の充実を図る。

- ・国際文化科において、3年間を通じたSDGs課題研究及び国際交流・異文化理解教育の取組みを充実させるとともに、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を育成し、世界規模で考え、自ら考え、調べ、行動、発信できる力を養う。さらに取組みとその成果を普通科とも共有し、令和8年度には自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率を95%以上（R3 92.1% R4 90.2% R5 93.6%）とする。
- ・ユネスコ・スクールとしての取組みについて、生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていける活動となるよう推進していく。

4 教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備

(1) 広報活動の強化。

- ・学校外諸機関との連携や渉外及び校内調整、また本校の魅力、スクール・ミッションやスクール・ポリシー（グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）等の情報を積極的に発信するため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善や情報提供を組織的に行う。

(2) 教育環境の整備と業務の効率化の促進を図る。

- ・ICT機器の活用を推進するとともに、オンライン等による授業や情報発信・情報収集を積極的に行う。
- ・効率的な学校運営に向けて、ペーパーレスの一層の推進、ICTの活用による各会議・研修の効率化をさらに進め、業務縮減を図る。
- ・多様な教育ニーズへの対応が求められる中、生徒・保護者・教職員が相互に共感的・協調的に教育活動と学校運営が推進できる関係性・場づくりに努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】 ※課題：黄色網掛け・下線

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒アンケート】昨年度との比較では31項目中22項目で肯定率が増加（増加幅0.1～7.9）、9項目で減少（減少幅0.5～2.7）した。生徒全体の回答率は92%（昨年度95%）で、全般的に肯定率の平均は86.9%と高く昨年度より0.5%の増（昨年度は2.2%増）である。</p> <p>95%以上の項目は「人権について学ぶ機会がある（97.2%）」「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある（96.2%）」「国際交流の取組みが活発である（94.7%）」「学校は1人1台端末を効果的に活用して</p>	<p><第一回> 令和6年7月12日（金）13時30分～15時00分 会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートに関して評価を上げるためにどのような取組みを行っていますか。 →「ICT授業向上委員会」が中心となって、リーディングGIGAハイスクール（LGH）事業の一環として近隣高校の教員と研修を重ね、その成果を校内でも共有している。 ・生徒自身がどのような場面でICTを活用しているのか。 →生徒の活用は教科により異なるが課題テストの配信等で工夫しており、反転学習を行っている教科もある。従来の板書の効用とICT機器活用を融合させて活用している。

いる(94.8%)」の4項目(2項目増)であった。

「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある(94.2%)」「基本的生活の確立に力を入れている(93.7%)」「進路情報を知らせてくれる(93.1%)」「先生ははじめについて真剣に対応してくれる(92.7%)」「文化祭・体育祭・修学旅行は意義深いものになるよう工夫されている(92.2%)」「先生は秘密を守ってくれる(90.4%)」「授業では自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある(90.1%)」「枚方高校には授業を大切に作る雰囲気がある(90.0%)」は高い肯定率を維持しており、90%以上は計12項目(1項目増)、85%以上は計20項目(2項目増)であった。

肯定率が最も増加した項目は、「枚方高校はボランティア活動が活発である」76.3%(7.9%増)である。本校生徒の美質の一つである利他の心をより一層発揮できるよう今後も自治活動や部活動等を通じ充実を図る。

『学習と部活動の両立』を大切に作る雰囲気がある」84.6%(3.8%増)、「授業でわからないことについて先生に質問しやすい」84.0%(2.2%増)は、昨年度がそれぞれ3.2%増、2.2%増と伸びが続いている。「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」94.2%(2.5%増)、「先生ははじめについて真剣に対応してくれる」92.7%(2.3%増)、「先生は秘密を守ってくれる」90.4%(1.5%増)なども微増ではあるが生徒との良好な信頼関係づくり、適切な対応など、今後も取り組みの充実を図る。

一方、「学校生活についての先生の指導には納得できる」の項目については、昨年度から4.3%増・0.4%増と連続して増加しているものの76.2%(0.4%増)と全体に関わる項目として最も肯定率が低かった。指導全般について真摯に省みると共に問題点の共有と改善・充実を図る。

また、連続して減少している項目は無いものの、「授業では評価の基準や授業のポイントが示されている(88.9%)」は昨年度1.2%増であったが、今回は2.7%減となり一昨年度(R4:90.4%)より1.5%減になっていることから、評価基準や重要なポイントの説明、生徒の理解度について今一度再確認するなど、対応が必要であると考えられる。

【保護者アンケート】肯定率平均は81.9%と0.6%増であった。

肯定率が90%以上の項目は「枚方高校は雰囲気が良く生徒が生き生きしている(90.5%)」「子どもに生命を大切に心や社会のルールを守る態度を養おうとしている(90.7%)」「枚高の学習支援クラウドサービスによる連絡はよく役立っている(91.5%)」「授業参観の機会を設けている(90.4%)」「1人1台端末を効果的に活用している(93.8%)」の6項目(2項目減)であった。

「授業参観の機会を設けている」は一昨年度(R4)に比べ(R5)7.8%増、(R6)0.9%増、「1人1台端末を効果的に活用している」は同様に(R5)2.9%増、(R6)3.0%増と少しではあるが増加が続いている。

一方で、50%台の項目は「枚方高校の学習環境における施設・設備は満足できる(59.6%・2.9%減)」「生徒会活動は活発であると子どもから聞いている(58.7%・8.1%増)」であった。

生徒会活動については、特に生徒会の関わりが深く、活躍の機会が含まれている項目、例えば「文化祭・体育祭・修学旅行は意義深いものになるよう工夫されている(92.2%・0.2%増)」「ボランティア活動が活発である(76.3%・7.9%増)」「他の学校や地域の人と交流する機会がある(77.1%・0.9%増)」と、生徒の診断結果からは一定の評価も認められる。

両者の肯定率・増加率の比較考量から、保護者に対し生徒会の活動内容の共有、活躍への理解をより一層図ることが課題であると考えられる。

「施設・設備」については、老朽化は否めないものの体育館空調機器設置やプール改修等の大型改修、国の「DXハイスクール事業」受託によるICT機器等の導入や食堂の空調機器設置、本校PTA「部活動支援基金」による中庭の芝生化など、学習環境の改善に取り組んでいるところである。

施設・設備の充実・改善内容、及びそれらによる効果や成果についてもより一層理解を得られるよう周知方法等を工夫する必要がある。

【教職員アンケート】全般について、52項目のうち27項目で肯定率が上昇、25項目で減少と肯定項目は過半数を超えたものの肯定率の平均は78.7%と昨年度より1.2%増にとどまっている。

肯定率が最も高かった項目は「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」97.4%(2.0%増)、「興味・関心・適性に応じた進路選択ができるよう指導を行っている」97.4%(13.6%増)、「コンピュータやICT機器が授業で活用されている」97.4%(2.6%減)であった。また、「他校にはない特色がある」92.1%、「授業の指導法について、工夫・改善に努めている」94.7%、「創意工夫を生かした『総合的な探究の時間』を実施している」92.1%、「生徒会活動など、民主的で主体的な活動を支援している」92.1%など、いずれも高い結果であった。

昨年度肯定率が低かった「学校として、読書指導に取り組んでいる(57.9%)」は13.7%増、「生徒会活動(92.1%)」は17.7%増となって

・デジタル化が進む中、アナログの良さにも気づかされている。

・枚高マップは生徒と共有できているか。

→生徒の主体性を育むために現在は枚高マップを第1・2学年で実践している。

・携帯電話に対する学習は授業以外で行うのか。

→「情報」の授業では、まず情報リテラシー、倫理観等を指導する。また、HR等でも指導を行っている。学校だけではなく家庭と連携をとって指導を考えていきたい。

・PTAと協力して講習等を考えていただきたい。

・先生方の残業はどうなっていますか。

→メリハリをつけて仕事をしている。部活動や行事に熱意をもって指導される先生方の時間が超過することが多々ある。

・部活動では外部の指導員が活用できるのでは。

→外部の指導者は活用させていただいている。ペアリング校も活用している。

・保育所でも子どもたちの主体性は大事にしたい。枚高マップに書かれている主体性を育てる取り組みに共感した。

・枚方未来学において大学との取組みについて、学んだことが記憶に残るような活動であると理解できた。

<第二回> 令和6年11月25日(月) 授業見学13時15分～13時55分

協議会14時00分～15時00分 会議室

・1人1台端末で家庭学習や学校での学習をしていたり、ペアワーク、毎時間の振り返りや小テストなど、すごく丁寧に指導されている様子が印象的でした。

・枚方高校は活用率が高く、子どもたちがとてもまじめだった点が素晴らしい。小学校でも探究学習に力を入れている。高校での取組みについても教えていただきたい。

・英語の授業を見学して発音の上手さに感銘した。

・1人1台端末の使用については、子どもからアクセスが集中するとネットワークが遅くなると聞いている。使えるものを使いたいときに使える環境に改善されるとうれしい。

・小学校はすべて回線を変えた。その後は枚方の小中学校は不都合を感じなくなった。

・探究的な学びの進捗状況を教えてほしい。

→1年次では、協働的に取り組む基礎としてコミュニケーショントレーニングに力を入れている。2年次にはSDGs課題研究に取り組み、摂南大学の先生方にご指導いただきより深い研究が可能になっている。3年次には枚方市役所と連携してビジネスアイデアコンテストを実施しており、企業の課題に対し提案型プレゼンテーションを行っている。

・外部の団体と共同して課題探究を行っていることが新しい学びを得ていると感じた。

・小中学生の不登校が増加していると聞くが高校でどのようになっていますか。

→スクールカウンセラーの力も借りて、保護者も含め困り感を共有して、登校できるようになればと支援しているのが実情です。

・スクールカウンセラーの相談の活用状況はどのようなものか。

→生徒だけに限らず、保護者、教員も受けているので活用できている状況である。

・英検について、素晴らしい結果だと思います。本学の指定校入試でも英検を受けていない生徒が思いのほか多く、本学に入学を希望する生徒なら準2級は持ってほしい。TOEIC受験についても引き続き進めてほしい。

・災害時の取組みはどのように行っているか。

→避難訓練の事前学習はあるが、カリキュラムとしての取組みはまだままだの部分もある。

・語学研修で、参加後の生徒たちの様子が変わったことには何か仕掛けがあるのでは？

→滞在中毎日オールイングリッシュの授業であるため、生徒たちは聞き逃さないように集中して授業を受けている。8:30～15:00頃まですべて英語。現地の授業に分散して入るので生徒が固まることがない。友達との会話も授業も全て英語。オールイングリッシュの環境で生徒がたくましくなる。英語力だけでなく人として成長して帰ってくる。

<第三回> 令和7年2月3日(月)13時30分～15時00分 図書室

・「ボランティアが活発である」が増加したということだが、どんなボランティア活動がなされているのか？ 校則の見直しについて高校ではどのような取組みをしているのか。

→生徒会が中心となり、全クラブ員で学校周りの清掃を行った。部活動単位では、吹奏楽部が支援学校で演奏会を行ったり、生物飼育部が生き物に触れあってもらえるイベントを実施したりしている。生物飼育部は、穂谷の休耕田で自然環境や絶滅危惧種を守る取組みをしている。

→校則については、まずは教員で話し合う場を設けた。総合的な探究の時間の中で、生徒たちが校則について研究する動きもある。来年度以降、生徒会も一緒に考えていけるように柔軟に取り組みたい。

・校則について、時代的背景として、マルチジェンダーなどについても生徒の声を聞いておられるからこそ、先生の意見が反映されているのかと思う。

・設備面での配慮をどう考えておられるか。多機能トイレなど。

→トイレ改修については和式の洋式化が済んでいる。マルチジェンダー向けトイレは2か所整備している。

・R7年度計画にある、「対話」のテーマについては、どのようなものを考えているのか。

→部活動、行事内で、うまく伝わっていない部分を感じている。対話ができる雰囲気づくりを意識して取り組みたい。

・高校生にとって教員はまだまだ対等に話ができる関係性ではないと思う。合理的配慮とまではいかなくとも、授業の進行の仕方を変えていけるような入口になってほしい。

・PTA活動が活発であるとの回答が多いが、先生方から見てどう思うか。

→活発に活動していただいております、本当にありがたい。

活動日数の削減、活動内容の精選等、組織改革にも取り組んでいる。文化祭等の行事では本当に熱心に取り組んでいただいております感謝している。

・生徒会が他の生徒の意見をどこまで反映されているのか。

→生徒会の生徒たちも、意見を取り入れるために意見箱を設けたりもしている。

・小学校では、児童会が活発だと学校が元気になる。高校にも期待する。

・教員間の対話もまだ十分ではないという認識がある。

<p>おり、生徒の活躍、教員の積極的な指導とサポートへの肯定の現れであろう。</p> <p>一方、「校則が適切であるか話し合う機会がある(44.7%)」と、昨年度15.4%増から一転して13.4%減となっている。生徒が話し合いに参画できるよう話し合いの進め方等の充実に向け検討が必要である。</p> <p>◆全体を通して、回答率の向上に向けた診断項目の精選、回答の方法と周知の徹底、学校全体の取組みや生徒の活動についてより一層理解を得られるような共通理解の場の創出・改善、周知方法の工夫を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話のやり方そのものを検討していくことも大事かと思う。 ・今対話がすごく求められている。生徒には対話を活性化するために、グランドルールを設けている。ルールがあるから安心して話を聞いてもらえると思うので、対話が活性化していくきっかけになる。タブレット等の影響で、発信する力が高まっているが、聞く力、対話する力が不足していると思う。教職員も、会議が連絡報告だけになっていて、意見交換の機会がなかったため、プロジェクトチームを作った、場の設定とルールの設定が大事だと思う。 ・共通テストの「情報」について生徒の反応はどうだったか。 <p>→本校では「情報」の受験者が少なかったため、意見は聞いていない。一般的に、易しい傾向にあった。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現	(1) 全教員の授業力向上	<p>ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を行い、授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止め、更なる改善に向けて取り組む。</p> <p>イ 教科内だけでなく教科を越えた教員相互授業の見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を活用し、ICTの活用やグループ学習などの研究・研修の充実に努める</p>	<p>ア 授業アンケートにおける「満足度」の3.30以上の維持[3.34]</p> <p>イ・相互授業見学期間を2回設け研鑽の機会とする。[2回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科内だけでなく教科を越えて授業見学など実施することで、自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率を向上させる。[89%] 	<p>ア 授業アンケートにおける「満足度」は昨年度と同様に3.34と維持した。今後とも更なる改善に取り組む。(○)</p> <p>イ・授業見学期間(6月・11月)、初任者研修で公開授業、研究授業を実施し教科の枠を越えて研鑽を図った。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率は85.9%と微減しているが生徒の肯定的な意見も増えていることから工夫は認められる。(○) <p>目標値に届いていないが生徒の思考を深める発問や協働的な学び、ICT機器の活用等、工夫を生かした実践はある。引き続き実践事例の共有と活用を図る。</p>
	(2) 夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	<p>ア 家庭学習を含めた学習指導のあり方について、教科・学年を越えて検討・実践を進め、生徒の更なる学力向上を図る。調べ学習や言語活動を充実させるため読書活動を推進する。その際、教科や生徒委員会による図書館を活用した学習や活動を充実させる。</p> <p>イ 学習指導、進路指導の充実・改善に外部模試等を全員対象とし積極的に活用する。また、各担任の進路指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施する。</p> <p>ウ 「生徒支援委員会」「人権教育推進委員会」「帰国・渡日生連絡会」「学年会」等での情報共有を密にし、保健室や生徒相談室等の機能を生かすとともにSCや関係外部機関との連携を進め、個別の課題等を抱える生徒への支援体制を充実させる。いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施及び面談を充実させる。</p> <p>エ キャリア教育・人権教育・国際理解教育の一層の充実に向け、教員自らが研鑽を積み機会として、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承・発展させる。あわせて、「総合的な探究の時間」において、SDGs課題研究などを通して課題を見つけ探究し、解決し、発表・発信する能力を育成する。</p>	<p>ア 「学力生活実態調査」における生徒の平均家庭学習時間を平日60分以上、休日平均90分以上に[1・2年平均平日36分、休日58分]</p> <p>イ・「学力生活実態調査」「B2ゾーン」以上の生徒割合2年生(2回目)50%以上をめざす。[58.0%]。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役生国公立大5人以上かつ関関同立70人以上の合格をめざす[国公立5人、関関同立96人] <p>ウ 自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率の向上。[83.3%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いじめについて真剣に対応」の肯定率90%以上の維持。[90.4%] ・自己診断(保護者)「保護者の相談に適切に対応」の肯定率85%以上の維持[84.6%] <p>エ 自己診断「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」[95.8%]、「人権について学ぶ機会がある」[97.7%]の肯定率90%以上の維持。</p>	<p>ア 平均家庭学習時間は平日37分、休日平均58分となった。(△)</p> <p>イ・「学力生活実態調査」「B2ゾーン」以上は、上位を維持している生徒はいるものの39.9%と減少した。(△)</p> <p>上記ア・イは学習の質と量に関連しており各教科での要因分析が必要である。教員は学習支援クラウドサービスで課題等の配信を積極的に行い、生徒も熱心に取り組んでいるが、数値に反映していない。家庭での学習状況等、リサーチも必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役生国公立大3人、関関同立98人。(○) <p>ウ「悩みや相談に応じてくれる先生」の肯定率は84.9%、「いじめについて真剣に対応」の肯定率92.7%と向上。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者の相談に適切に対応」の肯定率87.5%と向上。(○) <p>今後も生徒・保護者両者への相談対応の充実を図っていく。</p> <p>エ「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」96.2%、「人権について学ぶ機会がある」97.2%と肯定率は高い。</p> <p>今後もテーマの設定や講師の選定等、一層の充実を図る。</p> <p>外部講師からも好評を得るなど校内・校外(LETS合同発表会等)での研究発表の成果が認められる。今後も意欲と能力両面の向上につなげる。(◎)</p>
2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1) 自治活動及び学校行事の充実、部活動の活性化	<p>ア 生徒の自治活動を充実させ学校活動の活性化を推進する。特に行事の魅力化を検討する機会を設け、工夫して実施することで、生徒の自尊感情の高揚を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ノークラブデー」を実施し、部活動の活性化と効率化及び学習との両立をめざす。 ・文化祭・体育祭等について生徒会や関係生徒が主体的に企画・運営できるよう支援する。 	<p>ア 自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率の向上。[88.5%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断「学習と部活動の両立を大切にすると雰囲気がある」の肯定率の向上。[80.7%] ・自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率の向上。[92.0%] 	<p>ア「学校に行くのが楽しい」は89.4%と上昇した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習と部活動の両立」は84.6%と上昇した。(○) <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」は92.2%と上昇した。(◎) <p>0.2%増ではあるが、生徒会活動、各種行事や部活動など、生徒の自治活動に取り組む意欲的な姿勢が数々の実践として現れた。教職員も「生徒会活動などを支援」92.1%(17.7%増)と評価しており、両者の相乗効果を高く評価した。</p> <p>関西万博での活躍も含む企画・運営等、学校内外における自治活動の益々の充実、「挑戦と創造」を図っていく。</p>

府立枚方高等学校

	(2)生活規律を確立させる取組み	<p>ア 生活規律を重視する指導を明確化し、生徒が自律的に場に応じた身だしなみや行動ができるよう、生徒・保護者の一層の理解を得るとともに、規則について再確認を行いながら教員間の共通理解と組織体制の充実を図る。</p> <p>・遅刻指導、服装指導、頭髪指導について継続する。</p> <p>・交通安全指導、薬物乱用防止教育を充実させる。</p> <p>・SNSの正しい理解、携帯電話の使い方等、情報リテラシーに関する啓発と指導を行う。</p>	<p>ア・年間総遅刻者数 1,000 人未満維持[435 人]</p> <p>・自己診断「指導に納得・共感」の肯定率の向上。[生徒75.8%、保護者83.0%]</p> <p>・交通安全及び薬物乱用防止について、それぞれ講演を実施し、指導の充実を図る。</p> <p>・自己診断「情報リテラシー」の肯定率80%。[74%]</p>	<p>ア・年間総遅刻者数477人 (○)</p> <p>・自己診断「指導に納得・共感」は生徒 76.2%、保護者 76.8%となった。今後も生徒・保護者両者に理解を得られるように努める。(△)</p> <p>・交通安全については近隣の自動車教習所から講師を招き、特に自転車の安全運転の講習を行い啓発に努めた。(○)</p> <p>・教員の診断項目「情報リテラシー」の肯定率は79%となったものの、授業やHR活動、集会や始・終業式、講演会等で啓発と指導の充実を図っている。保護者との連携が一層必要になっていることから、次年度も専門家による講演に加え、啓発DVD等を活用するなど、PTAも巻き込みながら啓発に努める。(○)</p>
3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現	(1)英語4技能の育成とコミュニケーション能力・プレゼンテーション力の伸長	<p>ア 英語4技能の育成を進めるため、指導の工夫を行うとともに、国際文化科1・2年生に対して英検等外部検定の受験を推奨する。</p> <p>イ 大学や関係機関との連携を生かし英語暗唱弁論大会の更なる充実を図る。 改修された視聴覚教室でのポスターセッション等の実施を踏まえ「外国語キャンプ」、「インターナショナルフェスティバル」「LETS 合同発表会」等へ積極的な参加を促す。</p>	<p>ア 英語外部検定受験を推奨し、英検については国際文化科全員受験を実施する。卒業時の2級合格 60%以上、準2級合格 85%以上[32%、96%]。</p> <p>イ 自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率90%以上。[92.8%]</p>	<p>ア 英検は国際文化科全員が受験した。卒業時2級合格 38%、準2級合格 62%。(△) さらに、受験が終了した3年生に対しTOEIC対策講習等、新たな取組みが生まれた(1/22に53名が学校受験)。</p> <p>イ 自己診断「授業では自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率は90.1%と授業では微減となるも、英語暗唱弁論大会、インフェスや合同発表会への積極的な参加、活躍は評価に値する。(○) 今後も日々の指導とサポート、大学や関係機関との連携を生かし、探究学習、英語・第二外国語での発表の両面で充実を図る。</p>
	(2)国際文化科設置校としての取組みの充実・国際交流活動の更なる充実	<p>ア オンラインを含む海外交流や海外研修の推進を図る。</p> <p>イ 異文化理解の推進に向けて、近隣の大学等との連携を生かし、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。</p> <p>ウ ボランティア活動やあいさつ運動ユネスコ・スクール等の取組みについて、生徒会と関係クラブ等が連携できるよう支援する。また、活動成果等を学校全体で共有しその輪を広げていく。</p>	<p>ア・オンラインを含む国際交流や海外研修を合わせて年間5回以上実施する。[7回]</p> <p>イ 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率90%以上の維持。[93.6%]</p> <p>ウ 自己診断「他の学校や地域の人と交流する機会がある」の肯定率の向上。[76.0%]</p>	<p>ア・9件実施し年間を通じた交流の充実を図った[関外大インターシップ、AFS 留学生交流、オンライン交流、語学研修、1年国際理解プログラム、2年インフェスでの第二外国語成果発表(R2,3 留学生による指導)、台湾修学旅行、英検放課後・冬期講習、関学学生との交流]。 その成果として、異文化理解に加え、生徒の語学力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等が発揮され向上につながった。(◎)</p> <p>イ「国際交流活動が活発」の肯定率は94.7%と上昇した。(○) 上記アを含め、次年度も関係機関、大学等との連携・交流に向けて組織的に充実を図る。</p> <p>ウ 「他の学校や地域の人と交流する機会がある」の肯定率は77.1%と上昇した。(○) 今年度も近隣の保育所との交流活動、生徒会と部活動による地域清掃、正門周辺の整備などの活動ができ好評を得た。 DXハイスクールで整備した環境も生かして今後も継続させたい。</p>
4 教員組織体制強化と環境整備	(1)広報活動の一層の充実	<p>ア 広報機能の更なる充実を図り、学校説明会の活性化や中学校等が主催する進学説明会へ積極的に参加する。 説明等に生徒がより一層関わることで本校生徒の活躍を伝え、学校への理解を深める。</p> <p>イ 学習支援クラウドサービスの活用等により、保護者への情報発信を充実させる。併せて学校ホームページの内容の精選と適宜更新を図る。</p>	<p>ア学校説明会の参加者数1,300人以上の維持。[1570人]</p> <p>イ 自己診断保護者「枚高の学習支援クラウドサービスによる連絡は役立っている」の肯定率90%以上。[91.3%]</p>	<p>ア 参加者数は1830人となり目標を大きく上回った。校外の説明会にも積極的に参加した(◎) 説明会での説明、校内見学の案内・説明、部活動紹介での活躍等、生徒会・国際文化科・各部活動・有志の生徒が積極的に参加し好評であった。</p> <p>イ 自己診断保護者「クラウドサービスによる連絡は役立っている」の肯定率は91.5%となり活用の促進が見られた。(○)</p>

府立枚方高等学校

<p>(2) 教育環境のさらなる充実</p>	<p>ア ICT 機器の授業での活用を組織的に進めるため、環境の改善や充実に努める。</p> <p>イ 会議でのプロジェクター活用、校内インターネット、教員のタブレット端末の活用等により、会議資料ペーパーレス化・効率化を一層推進。 各種会議、委員会において、各教員が共通の情報の元、意見交換を行うとともに全般の効率化により時間短縮を図る。</p> <p>ウ 学習活動や生徒指導、進路指導、人権尊重教育、教育相談体制の充実など、多様な教育ニーズへの対応が求められる中、生徒の主体性や創造力、自己肯定感を高められるよう「生徒の安全・安心、自信の醸成」の実現により一層取り組む。 その実現に向け、生徒・保護者・教職員が相互に共感的・協調的に取り組めるような関係性と場づくりに努める。</p>	<p>ア ICT 環境の改善に努め、組織的に活用し、さらなる授業改善をめざす。教員の活用率の 95%以上維持（自己診断「教員の ICT 活用」[100%]</p> <p>イ・職員朝礼時等に府通知等をデータで送付し、服務規律を含めた情報共有の効率化を一層進めるとともに、職員会議や各種会議でのペーパーレス化を一層進める。 ・各種会議に向け、関係資料を速やかに掲載するとともに、教職員は会議前に内容を確認する。各種会議では、説明者はポイントを絞り明確かつ簡潔に説明する。 ・特別な場合を除き、各種会議を 1 時間以内に終わることを目標に円滑に進める。</p> <p>ウ 様々な問題点等について実態把握に努める。 教職員間での共通理解を図る場・機会を創るとともに協力体制の充実に努める。 ・自己診断教職員の肯定率の向上 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」[72.1%] 「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」[79.1%] ・自己診断保護者の肯定率の向上 「PTA 活動が活発である」[78.4%] ・自己診断生徒の肯定率の向上 「先生は生徒の意見を聞いてくれる」[86.3%]</p>	<p>ア 活用率は 97.4%と活用は定着している。(○) 教員間での成果共有を図るとともに、DX ハイスクールで整備した環境も生かした実践が実現できるよう組織的に推進する。</p> <p>イ・クラウド上で情報共有の効率化が進みペーパーレス化は進んでいる。(○) 共通理解を深めるために必要な資料配付に加え情報共有の効率化と有効化の両立を図る。 年末からのシステム更新を踏まえた新システムの活用を模索していくことも課題である。 ・簡潔な説明に努めている (○) ・円滑化も一定進んでいる。(○) 職員会議等での教員による研修会(10年経験者研修の一環で「個人情報保護研修」)を実施したところ好評であった。 今後も計画的に職員会議等で意見交換や研修を行うなど、集合型会議の有効利用の工夫についても検討したい。</p> <p>ウ・教職員「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」73.7% (○) ・教職員「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」86.8% (◎) ・保護者「PTA 活動が活発である」80.3% (○) ・生徒「先生は生徒の意見を聞いてくれる」83.7% (△)</p> <p>様々なテーマや教育活動の充実に向けより一層理解し合えるよう、生徒・保護者・教職員相互に、共感的で協調的な「対話」のあり方について考える必要を感じる。 「生徒の安全・安心、自信の醸成」に向け、教職員自ら振り返りながら「共感的で協調的な対話」の実践に、率先して取り組んでいきたい。</p>
------------------------	--	---	--